

ノヤマ通信

vol.22 (2024.卯月)



森のようちえんヒュッテ

【3月の活動記録：4日桂川溪谷、7日山の基地、14日宇和運動公園、18日山の基地、21日山の基地】



▲元・保育園園長の大野先生に山の基地までお越しいただき、わらべうたを教わりました(3/18)。体を動かしたり、くすぐったりとスキンシップがいっぱいで、昔ながらの親子遊びの魅力をあらためて感じました。

●活動を見つめるコラム

「木の枝で遊ぶ」

小さい子は木の枝が好きなのか、活動の中で木の枝にふれて遊ぶ姿が良く見られます。たとえば、木の枝をもって振り回す、木の枝を集める、木の枝で何かをたたく、木の枝を折る、木の枝で地面に絵を描く…などなど。こうした一つ一つの遊びをじっくり観察してみるのっておもしろいんですよね。

たとえば、「木の枝を折る」という動きを観察してみましよう。この動きの中には、①体を曲げて木の枝に手を伸ばす、②指先を使って木の枝を拾う、③木の枝のあちこちを触って感触を確かめる(時には口に入れる)、④こうかな、こうかなと持ち方を変えてみる、⑤力を入れて折る、といったように、遊びの中で体のいろいろな機能を使っていることがわかります。そして、同じような行動を何度もくりかえす中で、子どもなりに何かを試行錯誤をしている様子が見てとれます。

自分自身の体をしっかり使って何かをつかみ取るう、理解しようとしている子どもの姿は、生きるということに対する一生懸命さをものすごく感じられるので、とても好きです。(ゆ)



▲3/7 森のようちえん@山の基地(セリご飯づくり)

👏👏 山の基地

【3月の活動記録：6日、11日、13日、15日、26日日常管理、10日開放日、24日開放日⇒雨天中止】

●キウイ畑の周りの木の枝やつるを伐採したり、剪定したキウイの枝を片づけたりする作業をちまちま進めています。仮設トイレの周りの頭上などが、ずいぶんすっきりしたと思います。



●10日の開放日には、初めましての人やお久しぶりの人たちでワイワイにぎわいました。年度末は他の仕事が忙しく、開放をお休みしようかな、と思ったりもしましたが、来てくれた人に「ずっと来たいと思っていたんですよ～」と言ってもらい、定期的に遊べる日を設けることの大切さを改めて感じました😊。今後も月2回くらいは週末に開放日を設けるつもりなので、ふらっと遊びに来てくださ～い!





その他の活動

●3/2下宇和地域づくり協議会ジオパーク研修

地元の下宇和地区の地域行事で、宇和町稲生にある深山洞穴遺跡までの案内を行いました。

当日は雪がちらつき、なかの冷え込みでしたが、望遠鏡でため池にいる野鳥を観察したり、自然に関するクイズを出題したりしながら、身近な自然を楽しむお手伝いをしました。



●3/27イースターイベント

森のようちえんに通うお母さん企画のイベントを山の基地で実施しました。英語や海外の文化にふれる経験を森で、ということで、春の訪れを祝うイースターにちなんだプログラムでした。

イースターの絵本の読み聞かせ、隠されたタマゴを探す遊び（イースターエッグハント）、いろいろな色探し、卵のペイントなどもりだくさんの内容。自然の中でやる探しもの系の遊びはおもしろくて、子どもたちもすっかり引き込まれていました。



●3/30西予市生誕の森林植樹祭

ここ数年、毎年行われている市の植樹祭に自然体験の講師として参加してきました。

市内の1歳児さんとその保護者の方向けに、自然の中での遊び方のヒントを紹介しました。



よもやま話

●高知県大月町で、住民の声からパートナーシップ制度導入を実現した、勝俣さん、湯田さんのお話を聞きに行ってきました。勝俣さんは、トランスジェンダー当事者で、女性として生まれ、今は男性として生活されています。もう、お2人のお話がめっちゃめっちゃよかったということに尽きるのですが、講師として大学の教壇にも立っている勝俣さんのお話がすごくいいので分かりやすく。これまでの経験や日本の現状について、淀みなく話をしてくださっていたのですが、ある時気持ちがこみあげて言葉が止まり、涙を流されたんですね。きっと何百回も同じような話をされてきたのだろうけど、言葉が詰まった瞬間に、これまでも今もほんとに苦しい思いをしながら生きているということがガツンと伝わって、涙せずにはいられませんでした。LGBTQ+など性的マイノリティー当事者のことを理解し、支援のために行動する人のことをアライ(ally)と呼ぶそうです。これからallyとしてどんなことができるかなということを勉強会以来、ずっと考えています。(ち)

●お腹にいる頃から一緒に野山に出かけていた次女が、無事に森のようちえんの活動を終え、保育園も卒園しました。森のようちえんの活動をしていると「子育てしながらこうした活動をされてすごいですね!」と声をかけていただくこともあるのですが、子どものためだけではなく、半分以上は自分のためにやっているんじゃないかと思えます。

常日頃から、子どもたちには、自分で考え、行動できるようになったら、いつでも羽ばたいてほしいと考えています(もちろん、ずっとここにいでもいいけど)。私自身も18歳で山口を離れてからすでに25年が経ち、地元で親と共に過ごした時間よりも多くなりました。自分のやりたいことを尊重し、好きにやらせてくれた両親には、とても感謝しています(ずいぶん脛もかじってしまいました汗)そしてふと思うのは、私は自分が両親にやってもらったことを、自分の子どもに対してできるのかということです。

人生100年時代と言われるようになりましたが、家族と一緒に過ごせる時間は、そんなに長くないような気がしています。子どもが子どもでいる時間もそんなに長くはありません。だからこそ、時が来たらどうぞいってらっしゃい!と送り出せるように、悔いのない子育てをしたいなあと考えています。

(ち)



<発行>

一般社団法人

ノヤマカンパニー



愛媛県西予市宇和町稲生237-1

noyama.company@gmail.com